

4班・DVについて知っていますか



～ 山梨県・甲府市の支援体制について～



第3次「こうふ男女共同参画プラン」及びプラン別冊「甲府市配偶者等からの暴力の防止及び被害者支援基本計画」に基づき、甲府市等の現状と施策を学習し委員相互の意見交換を通じてエンパワーメントを図るとともに市民への情報提供・啓発活動を実施する。

第1回DV学習会



・傾聴の大切さ

「被害者の心に寄り添い、言葉を信じ事実を真剣に受け止め、共感を心掛ける。客観性を保ちながら見返りを求めない支援。

被害者の良きアンカーとなれるよう心掛ける」

・アンカー

アンカーは船の錨＝船の安定を保つ役割がある。

DV被害者を支えるアンカー(錨)の役割を果たす「人」



・加害者

- ・なぜ暴力を振るのか？
- ・怒りをコントロールできるか？

加害者を闇の中から救い出すために「更生プログラム」が必要



・DV を根絶するために必要な事は何か

子ども達への教育



第2回DV学習会



家庭内で起きるDV

性質上外へ出にくく、密かに時間をかけて進行する被害者にとって暴力からの脱却は長時間かかり、自らの力だけでは困難な状況がある

相談センターの存在

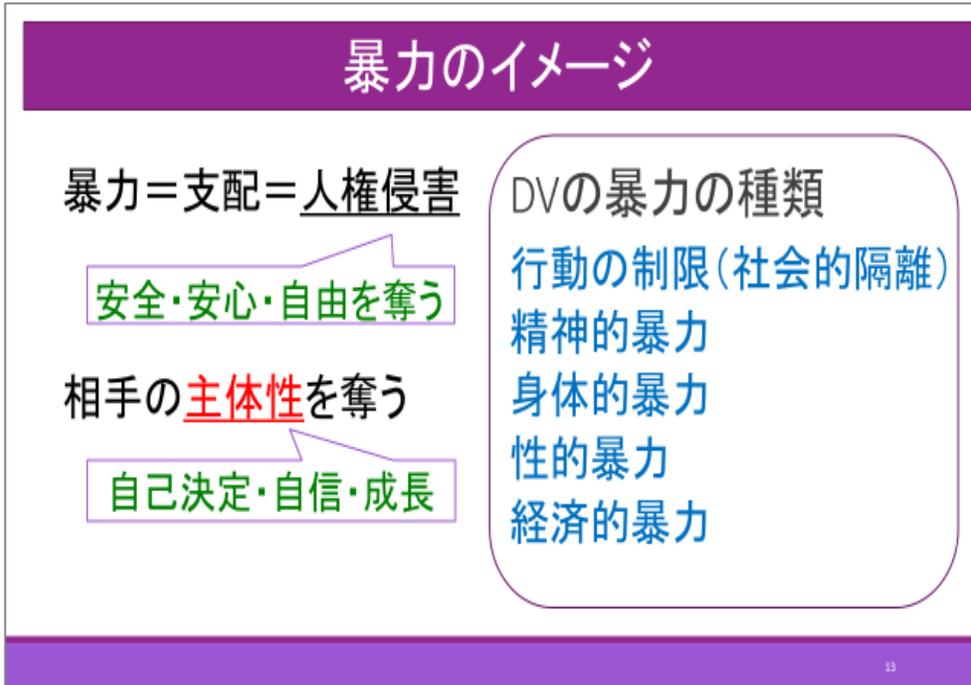
窓口の存在を周知

黙過することなく勇気をもって通報すること



講師:元山梨県男女共同参画課長、山梨県男女共同参画推進センター館長
現在はパープル&オレンジクラブ代表の横山祥子さん

DV・デートDVを未然に防ぐための教育・啓発



行動の制限 ・メールアドレスをチェックし、削除する
・外部との接触を制限する

精神的暴力 ・人格を否定する・無視する・命令する
・思い通りにならないと不機嫌になる

身体的暴力 ・怒鳴る・殴る・蹴る・平手打ちをする
・床や壁に体を押し付ける

性的暴力 ・同意のない性的行為をする
・恋人や夫婦ならセックスに応じるべきと言う

経済的暴力 ・お金を取り上げる・借りたお金を返さない
・自分の経済力を使って言うことを聞かせる

DV・デートDVを未然に防ぐための教育・啓発

DV・デートDVを未然に防ぐための教育・啓発

性教育の
必要性

「イエロー信号のはじまり」を見つける

(1) DV・デートDV被害にいたる構図

(見てきたように)

- ①「上下関係」をつくって、 ②「支配・被支配の関係」に陥らせる
(地位としての上下) (リードする者される者)

(2) 被害が出る一歩手前で気づくこと ……<大切>

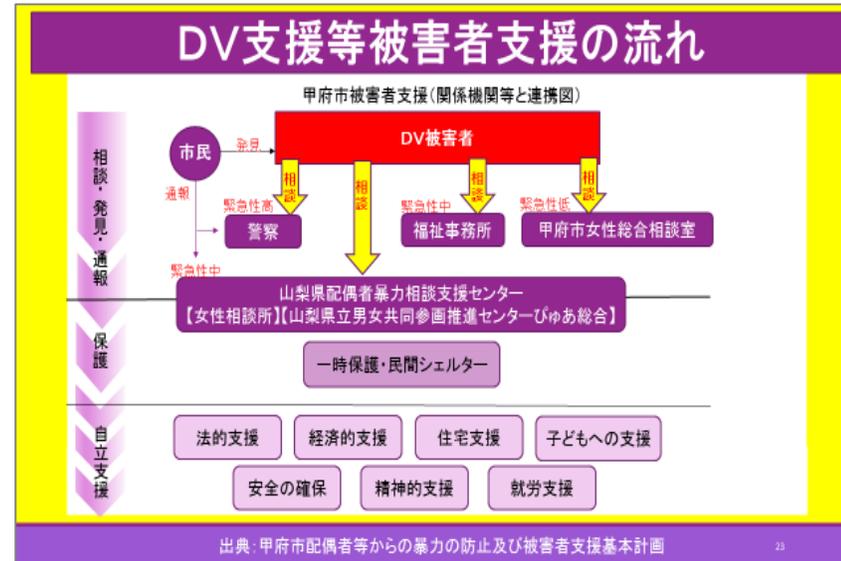
(つまり) ①の時点で、②の前に 注意喚起すること ……<大切>

- この 注意喚起 の啓蒙・啓発こそ、推進委員さんの役目

※ こんなこと…していない？
されていませんか？

- 夫や恋人の言う事が絶対で、最優先にしないと不機嫌になる。
- それが当たり前だと思っていないですか？
- それは思い込みや勘違いです！
- 気づくことが大切です。被害者が出る前に！
- 注意喚起・啓発こそ、私たち推進委員の役目です！

DV支援等被害者支援の流れ



- 「DVにあっていたら、相談をして下さい。声を上げて下さい。」
- 各関係機関が連携を取っていることで、被害者が自立するための支援を受けることができます。
- 相談センターの存在、窓口を周知することが重要で、多くの人たちがその存在を知ることによって、身近なDVに気付くきっかけにもなります。
- 被害者の早期発見や自立支援に向けて、被害者のニーズに応じた適切な支援ができるよう関係機関との連携を深めます。

～推進委員として私たちにできること～

4班は「DV について知っていますか？」をテーマに学習してきました。2回のDV学習会では、DVの現状や被害者救済の仕組み、支援の際の傾聴の大切さや注意点など具体的に教えていただきました。

甲府市男女共同参画推進委員会は、これまでDV防止啓発パネル展や街頭啓発活動を行ってきました。今後は推進委員一人ひとりが地域・学校・職場等で何ができるのか。推進委員の中には、ボランティア等で地域に貢献されている方々が多く在籍しています。この学びを糧として啓蒙啓発活動を実践していきます。

DVのない社会、誰一人として被害者・加害者・傍観者にならないために、啓発活動を絶え間なく実施していく事が、私たち推進委員の役割ではないでしょうか。

また、次世代に繋げていく事も大切です。子どもの頃からの人権教育の必要性「DVとは何か？」命を脅かす犯罪である事の認識、行政との連携が不可欠です。

4班・メンバー

- リーダー 小林清巳
- サブリーダー 小川はるみ
- メンバー 今橋あけみ
- メンバー 小笠原稔
- メンバー 大窪真由美
- メンバー 落合洋子
- メンバー 佐藤峰子
- メンバー 内藤司朗
- メンバー 矢崎真由美

